

企業名： ソフトバンクグループ

レポート名： ソフトバンクグループレポート 2022

### 1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

理解できる。ソフトバンクグループレポートでは、2ページ目からソフトバンクグループがこの先目指すビジョンを示しており、特に7ページ目ではソフトバンクグループがこの先自身のAIの発展によって目指す大きな目標が6つ挙げられており自動運転、世界規模の格差の改善、仕事へのAIによるサポート、病気の治療への貢献、生活の豊かさ、環境問題への配慮が挙げられている。将来目指していくグループ像が明確に示されている。58ページからは経営方針に関してより具体的な将来への展望を示しており、前に挙げたソフトバンクグループの将来像を実現するための話がグループの重役から語られる形で描かれている。

### 2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

理解できない。このレポートはいうならばソフトバンクグループが競争優位性を持っている前提で、その上でソフトバンクグループが掲げる将来像に向けて向かっていくかのレポートとなっており、競争優位性について詳しく説明するような部分は見受けられなかった。しかし、レポート終盤の財務編においてはソフトバンクグループが挙げた業績などが書かれており、そこからソフトバンクグループがいかに良好な経営を行っているかが理解できる。

### 3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

理解できる。前述の通り、ソフトバンクグループが競争優位性を持っているという前提ではあるが、このレポートにはこの先グループが行う経営の方針が書かれているため、自身が持つ優位性、AI技術を活かした優位な経営が続くことが伺える。

### 4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

できると考える。ソフトバンクグループではイギリスやアメリカ、シンガポールやブラジルなど世界中の14の拠点との連携のもと活動しているとレポートの29ページに書かれている。世界中の拠点との連携の中で海外とのコミュニケーションで仕事をしていくという経験は、自身の価値を高めるだろうと考える。

### 5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

非常にわかりやすい構成と、グラフや表などによりビジュアル的なクリアな素晴らしいレポートであるが、グループの「将来像に関する記述に偏っており、現状について理解できる

記述が終盤の財務編のみである点が改善できる点であると考え。